

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/28	50500	財団法人 化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートインフュージョンアガー	ウシ乳・心臓		製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50501	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/9/28	50502	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエモ抗毒素 ガスエモ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	アメリカ	製造工程	有	無	無	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。
2005/9/28	50503	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒性麻疹ワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖	ウシ乳	ニュージーランド	添加物 製造工程	有	無	無	変異型クローンフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/28	50504	財団法人 化学及血清療法研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	2005年6月、動物衛生研究所は、茨城県で国内初のトリインフルエンザH5N2型を特定した。発生源又は感染源は特定されていないが、野鳥との接触による可能性が疑われる。
2005/9/28	50505	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	血液凝固第Ⅲ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ロタウイルス陽性 マールブルグ病 ウイルス感染 リンパ性脈絡髄膜炎 リケッチア症 HIV感染、C型肝炎	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23) CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 Transfusion.2005;45 (4): 500-3 CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3) CBER Guidance for Industry July 2005	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。 2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。 米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。 2005年5月、CDCによると、米国でリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外には知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国においては極東アジアでの初確認例である。 2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。 HIV-1は8週間後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合ハリエント
2005/9/28	50506	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/28	50507	ZLBベーリング株式会社	人血清アルブミン 人血液凝固第Ⅷ因子 フィブリノゲン加第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	①④⑤⑥米国、ドイツ、オーストリア ②③米国	有効成分 添加物	有	有	無	マールブルグ病 ウイルス感染 リンパ性脈絡髄膜炎 リケッチア症 HIV感染、C型肝炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2  Transfusion.2005;45 (4): 500-3  CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2  第57回日本衛生動物 学会大会(2005年6/1- 3)  CBER Guidance for Industry July 2005  International J of hematology 2004;80:301-5	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。 米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。 2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。 2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。 HIV-1は8週間後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー。 米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/28	50508	ZLBベアリング株式会社	フィブリンゲン加第XⅢ因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無	人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について2000年1月までに報告された75論文で検討した結果。その中で5件の症例報告と44件の血液疾患の報告があり19件はBDV抗体を、11件はBVD遺伝子を14件は両者を測定している。また、日米欧で地域による有意差があった。
2005/9/28	50509	ZLBベアリング株式会社	人血清アルブミン 人免疫グロブリンG 破傷風抗毒素 フィブリンゲン加第XⅢ因子 ペプシン処理人免疫グロブリンG 乾燥濃縮人アンチトロピンⅢ	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	Veterinary microbiology 2004 ;104:113-7	異なった地域でのブタから収集された血清検体のうち66.2%でブタTTVウイルスDNAが検出された。ブタTTVウイルス自体はブタで発現する疾患との関連は知られていないが、他の病原体と共感染した場合に疾患を増悪させる可能性は否定できない。ブタ臓器などを使用した異種移植の際のヒトへの影響が懸念される。
2005/9/29	50510	財団法人 阪大微生物病研究会	発疹チフスワクチン	卵巣囊	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。
2005/9/29	50511	財団法人 阪大微生物病研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352(7):686-91	2005年2月、ベトナム南部で、呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された。
2005/9/29	50512	財団法人 阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブタ→ヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/29	50513	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシの乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE  ニパウイルス	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日  Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始! 2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリープターヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。
2005/9/29	50514	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシの肉、骨、脂肪	日本、ブラジル、インド、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE  ニパウイルス	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日  Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始! 2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリープターヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があることが示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/29	50515	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE  ニパウイルス	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日  Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始! 2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブタ→ヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があると示唆された。
2005/9/29	50516	財団法人 阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフハートインフュージョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE  ニパウイルス	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日  Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始! 2001年03年バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果、通常コウモリ→ブタ→ヒトの感染経路であるがヒトが病気の牛に接触して感染した可能性があると示唆された。
											BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/9/30	50517	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/9/30	50518	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	添加物	無	有	無			
2005/9/30	50519	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/9/30	50520	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
2005/9/30	50521	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
2005/10/3	50522	日本赤十字社	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
2005/10/4	50523	ニプロファーマ株式会社	塩化第二鉄・硫酸亜鉛配合剤 コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨	米国	有効成分 添加物	無	無	無			
2005/10/4	50524	ニプロファーマ株式会社	ヘパリンナトリウム注射液 ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
2005/10/5	50525	三菱ウェルファーマ株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
2005/10/6	50526	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/6	50527	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンキット 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/6	50528	東菱薬品工業株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出物	ナプトピン	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
2005/10/6	50529	東菱薬品工業株式会社	バトロキソピン	バトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
2005/10/7	50530	扶桑薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	サルモネラ	J of Protection 2005;68(2):273-6	2001年夏、ドイツでサルモネラ属ミュンヘン感染が発生した。原因としてブタ肉が疑われた。ブタ肉の汚染が一連の生産工程の初期に起こったことが遡及調査からわかった。
											人畜共通感染症	J Clinical Microbiology 2005;43(3):1142-8	デンマークの回虫症患者について、AFPLP法および核rDNAの内部転写スベ <sup>o</sup> サー(ITS)領域のPCR-RFLP法によって、ヒトからの回虫とブタからの回虫を比較した。結果、ヒトの回虫感染は家畜ブタからの回虫感染であった。よって、回虫症はデンマークにおいては人獣共通感染症として考慮しなければならない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/7	50531	社団法人 北里研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	①②日本、③不明	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMed20050727-gaut 0010(Reuters7月26日)	中国保健省は、中国南西部で死者19名と患者61名を出した原因不明の疾患は、ブタ連鎖球菌が原因と発表した。(7/26)8/16には患者は215名に達し、39名が死亡した。しかし、新たな患者は8/5以来発生していない。
											トリインフルエンザ	FAO news Apr 25 2005	2005年3月15日、北朝鮮においてトリインフルエンザ流行のため、数千羽のニワトリが死亡したと報道された。その後、4月に国連食料農業機構は北朝鮮で流行したトリインフルエンザは制圧されたと発表し、本流行のウイルスはH7型株によるものでニワトリに対しては重篤な疾患を引き起こすが、アジアの他の地域で流行しているH5N1型株との直接的な関係はないことを示した。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月9日	2005年6月、米国ニューヨーク州のアヒル飼育農場における低病原性鳥インフルエンザ(H7N2型)の発生を受け、日本当局は同州からの家畜家畜肉等の輸入を2005年6月9日ついで一時停止した。当該輸入停止措置については、当該州における同病の清浄性が確認されるまでの間、継続する。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月26日	2005年6月26日、農林水産省は、弱毒タイプを考えられる高病原性トリインフルエンザH5N2亜型が茨城県の養鶏場で確認されたと発表。その後、同県および埼玉県にある養鶏場でトリインフルエンザウイルスH5亜型に対する抗体陽性が確認されている。
											トリインフルエンザ	Nature 2005;436(7048):191-2	H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でインドガンでの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/7	50532	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	FAO news Apr 25 2005	2005年3月15日、北朝鮮においてトリインフルエンザ流行のため、数千羽のニワトリが死亡したと報道された。その後、4月に国連食料農業機構は北朝鮮で流行したトリインフルエンザは制圧されたと発表し、本流行のウイルスはH7型株によるものでニワトリに対しては重篤な疾患を引き起こすが、アジアの他の地域で流行しているH5N1型株との直接的な関係はないことを示した。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月9日	2005年6月、米国ニューヨーク州のアヒル飼育農場における低病原性鳥インフルエンザ(H7N2型)の発生を受け、日本当局は同州からの家畜家畜肉等の輸入を2005年6月9日ついで一時停止した。当該輸入停止措置については、当該州における同病の清浄性が確認されるまでの間、継続する。
											トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月26日	2005年6月26日、農林水産省は、弱毒タイプを考えられる高病原性トリインフルエンザH5N2亜型が茨城県の養鶏場で確認されたと発表。その後、同県および埼玉県にある養鶏場でトリインフルエンザウイルスH5亜型に対する抗体陽性が確認されている。
											トリインフルエンザ	Nature 2005;436(7048):191-2	H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でイントカンの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された。
2005/10/7	50533	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	Veterinary microbiology 2004 ;104:113-7	異なる地域でのブタから収集された血清検体のうち66.2%でブタTTVウイルスDNAが検出された。ブタTTVウイルス自体はブタで発現する疾患との関連は知られていないが、他の病原体と共感染した場合に疾患を増悪させる可能性は否定できない。ブタ臓器などを使用した異種移植の際のヒトへの影響が懸念される。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											<p>コロナウイルス感染</p> <p>Emerging Infectious Diseases 2005;11(3)446-8</p>		<p>2003年中国でSARSの流行があった地域において、ヒトと接触の機会のある6種類の家畜242頭からPCR法による検査をした結果、ブタ2頭のみが陽性となり、うち1頭がウイルスも分離できた。分離されたウイルス株と既に中国本土から分離されている株とを比較したところ一部ヌクレオチド置換等からヒトを起源としたものである可能性が示唆された。SARS-CoVのヒト-ブタ伝播の可能性が考えられる。</p> <p>H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でインドガンでの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された。</p> <p>2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。</p>
											<p>トリインフルエンザ</p> <p>Nature 2005;436(7048):191-2</p>		
											<p>レンサ球菌感染</p> <p>WHOホームページ 2005年8月3日</p>		
2005/10/7	50534	社団法人 北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	①~③米国、 ④~⑥不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/7	50535	社団法人 北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ウマ脱繊維血	ウマ血液	①②ニュー ジーランド、 ③④⑤不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/7	50536	三共株式会社	トロンピン	トロンピン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
2005/10/7	50537	宇治製薬株式会社	コンドロイチン硫酸鉄コロイド	コンドロイチン硫酸ナトリウム	牛の軟骨	米国		無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/7	50538	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50539	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタの胃	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ2005年8月3日	2005年8月現在、中国四川省でアウトブレイクしたブタ連鎖球菌の患者206例中38例が死亡。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
2005/10/7	50540	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降は症痛トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン ジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド コレラワクチン 日本脳炎ワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50541	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50542	デンカ生研株式会社	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/10/7	50543	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50544	デンカ生研株式会社	ワイル病秋やみ混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/7	50545	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月~2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50546	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月~2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
2005/10/7	50547	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2005:54(32):799-801	2005年5月、CDCによると、2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死し、臓器提供され、臓器レシピエント4例中3例が死亡したと発表。調査により、LCMV感染と判明。疫学調査の結果、臓器レシピエント、ドナーの飼っていたハムスター、購入した販売店の他のげっ歯類で共通のLCMV系統が発見された。また、これを受けCDCはヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルスの感染リスク低減のための一般向け暫定的ガイダンス更新した。
2005/10/7	50548	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	製造中止	製造工程	無	無	無			
2005/10/7	50549	デンカ生研株式会社	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	尿膜腔液	ニワトリの受精卵	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/1	50550	日新製薬株式会社	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの気管	アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
2005/10/1	50551	日新製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム製剤	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月16日	2005年6月頃から発生している中国でのブレンサ球菌流行について。現時点では中国衛生部によると215名がブタヒト感染し、うち39名が死亡していると報告している。これまでの調査ではヒトヒト感染の証拠は見られていない。今回の流行が最近の流行と比較してこれほど大規模であったのかについては更なる調査を必要とする。
2005/10/1	50552	沢井製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
2005/10/1	50553	沢井製薬株式会社	トロンビン	トロンビン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/1	50554	伊藤ライフサイエンス株式会社	パルナパリンナトリウム	パルナパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	炭疽	ProMed20050318-0120(Open ru news agency)	2005年3月、ロシアのVoronezh地域疫学サーベイランスセンターによると、Kamensk地区で豚炭疽症例が発生し、関係者5人が隔離された。前回炭疽菌が確認されたのは1950年。現在Kamensk地区含め炭疽感染中心800箇所が点在する。
											炭疽	ProMed20050805-0060(Gazeta Ru information 5月30日)	2005年5月、ロシアのRostov地域ロシア連邦緊急事態省によるとRostov地区で豚炭疽症例が発生し、92名が予防接種を受けた。
											炭疽	ProMed20050816-0060(Agency of national news 8月11日)	2005年8月、ロシアのRostov地区でヒツジの炭疽症例が発生した。今回の事例を受けて現地では家畜に対する大規模なワクチン接種が開始された。
											炭疽	ProMed20050902-0050(New Agency)	Kamensk地区で今年(2005年)3例目のブタ炭疽菌が獣医研究所の解析により同定された。
											炭疽	ProMed20050906-0060(New Agency)	Kamensk地区で今年(2005年)3例目のブタ炭疽菌が獣医研究所での生物学的、顕微鏡的、細菌学的検査によって公式に確定された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050413-0080	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出されたと発表。
											トリインフルエンザ	ProMed20050415-0060	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。米国の研究者による予備的な研究結果から、ブタ同士ではH5N1ウイルスの感染伝播しないことが示唆された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050514-0060	2005年4月からのインドネシアにおけるブタの鳥インフルエンザウイルス感染について、中国の科学者らは、動物が本当に感染したのか単に皮膚や鼻腔にウイルスの痕跡が残っていただけなのか懐疑的を述べている。
											トリインフルエンザ	ProMed20050515-050	インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。
											トリインフルエンザ	ProMed20050515-060	2005年5月、食料農業機構(FAO)の鳥インフルエンザ疾患緊急情報によると、2005年4月のインドネシアの豚の鳥インフルエンザウイルス感染につき北朝鮮では、H7型による感染が拡大しつつあると報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	OIE DISEASE INFORMATION 27 MAY 2005 VOL 18-21	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。
											トリインフルエンザ	ProMed20050602-0070(OIE 2005;18(21))	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。
											トリインフルエンザ	ProMed20050725-0020(Reuters alertnet 7月24日)	2005年7月25日、インドネシア当局は同国初の鳥インフルエンザ犠牲者となった同一家族の3名が居住する町に近い村の鳥インフルエンザに感染したブタを処分した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050724-0020	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050725-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050726-0050	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050727-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050727-0010	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMe20050727-0070	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。